



平成30年度 稔ヶ丘高等学校学校経営計画

目指す生徒像

中期的目標と方策

セルフコントロール

自分を高め、前に踏み出す強い心

チームワーク

多様な他者と協働して問題解決に向かう力

クリティカルシンキング

疑問をもち考え抜く力

1 今後の中期的な展望

- ア 生徒受入れのあり方…募集・広報活動を充実させ、本校のミッションを正確に伝える。
- イ 生徒の成長のあり方…生徒指導とキャリア教育の充実を図るなど、コミュニケーション能力とマナーの育成を推進する。
- ウ 卒業・進路のあり方…キャリア科目を充実させ、卒業率と進路決定率の向上を図る。
- エ 学習支援のあり方…「誉めて伸ばす」ことを基本に、学習習慣を定着させ、伸びる生徒には「負荷」をかけ、ワンランク上の学習を促す。
- オ 生徒相談のあり方…カウンセリング委員会やスクールカウンセラー・みのりの場、自立支援チームの活用を通じて、授業出席率の向上を図る。
- カ 学校生活のあり方…学校行事（文化祭、みのり杯、授業発表会）・進路体験行事の充実
- キ 学校のしくみのあり方…他部履修や学校外の学修などを駆使した柔軟な学習システム
- ク 外部関係のあり方…みのり保護者の会、卒業生の会、社会福祉協議会や若者サポートステーション等の外部の関係機関との連携を推進する
- ケ 教員集団のあり方…課題意識の共有とOJTの推進

今年度の目標と方策

2 学習指導

- ア スモールステップを活用して自己効力感を養い、「自発学習」する生徒を育てる。
 - ・学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて自己効力感を育てる。
 - ・毎回の小テストや自宅学習の工夫で「自発学習」を習慣づける。
 - ・基礎力診断テスト結果を活用し、外部模試も積極的に受験させる。
 - ・補講等を活用して、検定試験や模擬試験等の受験を積極的に奨励する。
- イ 長期休業日中にも学習指導を切らさない。
 - ・検定対策講座等を実施し、生徒の検定合格と学力向上を目指す。
 - ・社会体験実習を推進し、マイレージに加える。
 - ・「みのりゼミ」などを充実させ、ワンランク上の学習活動を構築する。
- ウ 授業の質を向上させる。
 - ・言語活動を導入し、生徒を積極的に授業に参加させる。
 - ・ICT機器を使った授業の工夫・改善を推進する。
 - ・アクティブ・ラーニング推進校としての成果を活用し「考える」授業を推進する。
 - ・研究授業を励行し、授業改善に資する。
 - ・オンライン英会話を試行し、4技能の習得を推進する。

3 キャリア教育指導

- ア 組織的なキャリア教育を確立する。
 - ・1年次から卒業年次までの一貫したキャリア教育を確立する。
 - ・キャリア教育の内容について、生徒の実態に応じて精選・厳選する。
- イ キャリア教育を通して「社会的な自立」を促す。
 - ・1年次のキャリア教育により、社会の中での自他の肯定感を高めるとともに、ピアサポート（仲間同士の支え合い）による学校生活への定着と、コミュニケーション能力の向上を推進する。
 - ・2年次以降のキャリア教育では、自己の社会的役割に気付かせ、進路意識を高める。また、卒業年次のキャリア教育では、進路実現と社会的自立を図る。
- ウ 「社会的自立」を実現する指導を行う。
 - ・マイレージを活用して、ボランティア活動やインターンシップ、上級学校訪問等に積極的に参加させる。
 - ・ハローワークや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。
 - ・自立のための社会性やマナーを育成する指導を推進する。

4 生徒指導

- 「他人のチャレンジを邪魔しない」を合言葉に、全教職員で組織的な生活指導を推進する。
- ア 安心安全な学校を創るとともに、体罰を根絶する。
 - ・生命と人権を尊重させ、自他のチャレンジを尊重する。
- イ 落ち着いた学校生活をおくらせる。
 - ・ノーチャイム制により、スケジュール管理の能力を身に付ける。
 - ・全校で「笑顔で挨拶」を励行する。
 - ・校風の正しい着用（特にスカート丈）を徹底する。
- ウ きれいな学校環境を守る。
 - ・校内清掃を徹底し、ゴミ分別活動を推進する。
- エ 文化祭、みのり杯、進路体験行事を充実させる。
- オ 生徒の自主性を育てるHR活動や生徒会活動を推進させる。
- カ 部活動の活性化により、課題解決能力とコミュニケーション能力を身に付けさせる。

5 防災教育

- ア 災害に備えた校内体制を整える。（学校安全・防災対策委員会）
- イ 震災を想定した防災訓練を行なう。（年4回）
- ウ 災害に対応できる備蓄を行なう。（企画室、総務部）
- エ 地域の防災訓練に積極的に協力する。

6 保健指導（心と体の健康づくり）

- ア カウンセリング委員会を中心に種々の相談機能（スクールカウンセラー、自立支援チーム、みのりの場、スクールソーシャルワーカー等）を向上させる。
- イ 情報交換会における生徒情報を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心に配慮を要する生徒の支援の立案を行う。
- ウ いじめの未然防止と早期発見に努める。

7 募集・広報活動

- ア 個別相談、各種説明会を通して受検生や保護者、中学校、適応指導教室等への学校理解を深める。
- イ 入学者選抜の結果を分析し、今後の改善に活用する。
- ウ Web ページを充実させ、中学校や適応指導教室等に情報を発信し、募集・広報活動の改善・工夫する。

8 地域交流、保護者

- ア 幼稚園や小・中学校、特別支援学校、町会、社会福祉協議会等、地域との関係機関との連携を強化する。
- イ ボランティア教育推進校として、生徒のボランティア活動を奨励し、地域との交流活動をより一層推進する。
- ウ 「みのり保護者の会」及び「卒業生の会」の組織化に協力し、連携を図る。

9 経営企画室

- ア 経営改善や施策改善との提言を行い、経営参画型の企画室を構築する。
- イ 効率的な予算執行を通して、学校経営計画を具現化する。
- ウ 都民の教育ニーズを的確に把握して、行政的視点から学校経営に反映する。
- エ 利用者（生徒）の視点に立った改修工事を実施する。

10 環境整備担当

- ア 清潔で安全な学校環境を維持整備する。
- イ ゴミの分別指導や共通部分の清掃を徹底する。
- ウ 修理・修繕を迅速に手配し、円滑な教育活動の推進に寄与する。

11 図書室

- ア 生徒の「読みたい」「知りたい」読書環境を充実させる。
 - ・生徒の自発学習・自発読書環境を整備する。
 - ・開館時間の拡充等により、利用率を向上させる。
 - ・スポーツ関係の図書を充実させ、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- イ 英語多読ルーム、多読コーナーを充実させる。
 - ・英語における自発学習環境を整備する。

重点目標と方策

1 学習指導

- ア 小テストや家庭学習などにより、生徒に負荷をかける。
- イ 言語活動をはじめ、体験的な学習活動を積極的に導入する。
- ウ 検定試験や資格取得試験の受験を励行し、自信をもたせる。
- エ アクティブ・ラーニングの視点から、対話的で深く考える学習活動を推進する。

2 キャリア教育

- ア 上級学校訪問等を通して、進路意識を啓発する。
- イ プレゼンテーション能力の向上を図る。

3 生徒指導

- ア マナーやルールを身に付けさせる。
- イ みのり杯や総祭への主体的な参加を通して、自発性を培う。
- ウ 部活動の加入率を高め、活動の活性化を図る。
- エ ボランティア活動を推奨し、参加生徒を増やす。

4 保健指導

- ア SC やSSW 等と連携し、相談機能の充実を図る。

5 募集・広報活動

- ア Web ページを充実させ、募集・広報活動を推進する。

6 学校経営

- ア 市民講師や関係機関等の学校外の教育力を活用する。